

水田の施肥量と土壌養分は25年間でこう変化している

【1 成果概要】

農業研究センターでは昭和54年度から5年おきに圃場を決めて土壌調査をしています。この25年間で施肥量はチッソ、カリで約7割、リン酸で約6割、石灰とケイ酸で約4割に減っています。

土壌中のリン酸とカリは増加が鈍って横ばいになっていますが、不足している圃場の割合はわずかで、約3分の1の圃場では施肥が不要なほど過剰に蓄積しています。

土壌中のケイ酸は減少しています。今後、水稻に含まれるケイ酸の量を把握する必要があります。

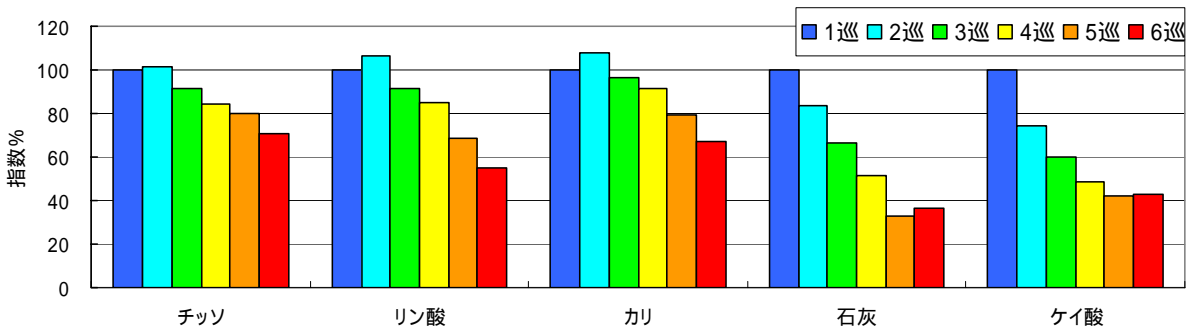


図1 肥料成分の施用量(1巡目を100とした指数)

調査年 1巡：S54-58 2巡：S59-63 3巡：H1-5 4巡：H6-10 5巡：H11-15 6巡：H16-20

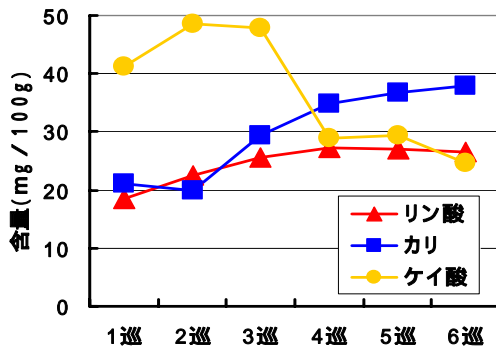


図2 土壌養分の変化

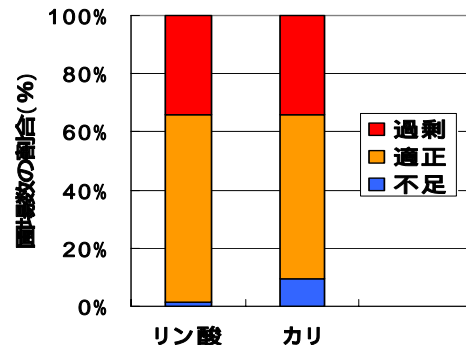


図3 土壌養分の過不足の割合

【2 効果】

肥料費の低減に向けた県全体の施肥指導等の基礎資料として利用されます。

【3 留意事項】

各地域でもリン酸、カリを中心に実態を調査し、肥料費の節約につなげる必要があります。

【4 適応対象】

- 1 地帯 県内全域
- 2 対象者 農業普及員等の指導者等